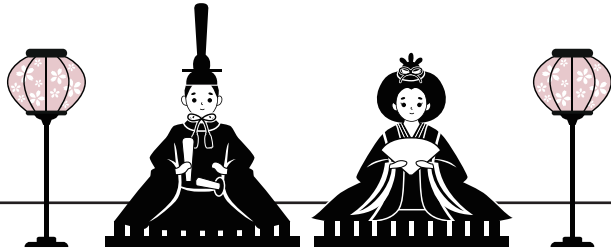


ジャパントラストさんには10年以上お世話になっており、初めて飛び込みで来られた方から歴代のご担当者様はもちろん、日本のみならずLos AngelesにあるGreat Luckさんにも大変お世話になっております。今は劉さんにご担当頂いてますが、先ずはレスポンスが早いこと、そして依頼させて頂いた難しい案件にも無理とは言わずチャレンジして頂き、このコロナ禍でも手厚くサポートして頂いおり有難く思っております。船のブッキングが思う様にいかない状況ですが、劉さんを頼りにしておりますので、今後とも宜しくお願い致します。



マリンフーズ株式会社
第二商事課
伊藤忠広様



弊社ロジスティクスプランナー 劉信彦



海運豆知識



RORO船(在来船):一時間に120台を積み込む驚異の荷役速度

海上輸送する上でコンテナ船、在来船、タンカー船等色々ある中で今回はRORO船(在来船)についてお話させていただきます。RORO船(在来船)とは、特定の貨物をより効率的に輸送することを目的に開発された様々な専用船の中でも、多くの点で個性的な特徴を持つ船種となり、その中で一番ユニークな点は「走る貨物」である自動車の特徴を生かした独特の荷役方式となります。専門のドライバーが、貨物である車を船内の積み付け位置まで直接運転して積み込むため、クレーンなどの荷役装置を必要とせず、しかもスピーディーに限られた停泊期間の間に積み込みをします。かつて一般貨物船にクレーン積みしていた時代の荷役では、1基のクレーンで1時間に15~6台というペースでしたが、現在の荷役方式では、20名前後の荷役チームで1時間に約120台という驚異的な荷役速度を実現しております。まさに革命的ともいえる効率化とスピードアップをもたらしました。日本の自動車工業の生産額は、全製造業中の1割、機械工業中の3割を占め、日本経済を支える基幹産業として重要な役割を果たしております。RORO船(在来船)は、海外への輸出活動を支え、日本国内の生産基地と海外の市場を直結する、いわば海のベルトコンベアとも言えます。我々ジャパントラストにおいても日米間のコンテナ輸送に加え、全世界のオーバーゲージ貨物の取り扱いが非常に多い中で今回ご案内したRORO船(在来船)の取扱いもしております。コンテナ船で運べないサイズの機械、在来船だと貨物重量とリードタイムに不安という方、是非ジャパントラストへまずは相談をして頂ければ弊社営業マンがオーダーメイドの輸送提案を致します。

